

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 21 日現在

機関番号：34307

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2014～2016

課題番号：26381297

研究課題名（和文）保育者養成における領域「表現」へのクロスカリキュラム導入に関する検討

研究課題名（英文）New Class Design of Childcare Content Expression in Cross Curriculum for Students of Nursery Teachers Training Course

研究代表者

智原 江美（CHIHARA, Emi）

京都光華女子大学・こども教育学部・教授

研究者番号：90217240

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 900,000円

研究成果の概要（和文）：子どもの表現は様々な要素が重複しているため保育者も総合的な表現能力やそれを受けとめるための感性が必要となる。保育者養成校学生の感性を育み、それらを養うための技能習得と実践力を養うこと目的とし、保育現場および保育者養成校へのアンケート調査をもとにクロスカリキュラムを用いた授業を計画し実践した。複数の表現領域の要素が重複されていることで、学生は領域を相互的に関連つけた活動を経験することができ、言葉以外での表現の難しさや表現の多様性に気づくことができた。総合表現の活動を可能にするのは各領域の個々の基本的な知識・技能の習得が前提であり、段階を踏んで導入していくことのできるカリキュラム整備が必要である。

研究成果の概要（英文）：It is important for the students of childcare training course to foster the sensitivity and creativity of Childcare Content Expression. A pilot class of Childcare Content Expression using cross curriculum was newly designed and tested in nursery teachers training course. The students could experience various artistic expressions including physical exercises in mutually related manners. They recognized the importance and variety of non verbal expressions. They were also more motivated to learn various types of Childcare Content Expression and try their ideas in learning processes. The new curriculum must be arranged both to assist acquiring basic expression skills in each subject, and to understand how to combine different expression factors in daily childcare activities. The teachers specialized in each subject must have preliminary meetings to mutually understand characteristics and differences before designing class contents in cross curriculum.

研究分野：体育学

キーワード：保育内容「表現」 総合表現 クロスカリキュラム 保育者養成

1. 研究開始当初の背景

保育現場の子どもの活動は複数の保育領域と関連した総合的な遊び = 生活体験として行われる。そのため、幼稚園や保育園における保育教材も多領域と関連しており、保育者はそれに対応した総合的な教材を工夫する力が要求される。このうち「音楽」・「図画工作」・「体育」の教科はこれまで実技科目の「保育基礎技能」として取り扱われてきたが、平成 23 年度の保育士養成課程カリキュラム改訂においては「言葉」も加えて「保育表現技術」という名称に改訂され、これらの表現技術を実践的な保育活動として展開できる力をつけることが重要であるとされた。しかし、保育者養成校の「表現」のカリキュラムは「言葉」・「音楽」・「造形」・「身体」の各表現に分かれて開講されており、その指導内容は教科目担当者が個々の専門領域の科目中で教材を取り上げて指導を行うのが現状である。

専門職としての幼稚園教諭や保育士として、「言葉」・「音楽」・「造形」・「身体」のそれぞれの表現領域に関する専門的な知識・技能が必要であることはいうまでもないが、保育現場での実践においては専門的に学んだ各領域の知識・技能を自分の中で統合し、一つの活動として構成することが必要となってくる。けれども、このような力をつけることのできる学びの機会には保育者養成課程の現状のカリキュラムでは設定されておらず、申請者らの実習指導(幼稚園・保育所実習の事前事後指導)の経験においても教科目の枠を超えて発展した活動を計画する実践力を習得できている学生は非常に少なかった。

そこで固定化された教科枠の思考形態から脱却し、ボーダレス化した課題に対する思考力や判断力を獲得する新たな認識作用をもたらすことができる手法としてクロスカリキュラムの手法を用いて、養成校で学んだ各科目の専門的知識を統合させ、現場での実

践的な活動に生かすことのできる力としての育成が必要であると考えられる。特に他の科目との連携の形が取り易い「音楽」以外の科目間統合をどのように行うのかは、学生にとっても指導する側にとっても手探りの状況であり、指導法や教材の研究が十分になされていない状況にある。

2. 研究の目的

保育現場では保育者は様々な子どもの表現を受けとめ、また、様々な領域に対応した総合的な教材を工夫する力が要求される。保育現場での実践においては各科目の知識・技能を統合して一つの活動として構成することが必要となってくる。これまで領域を連携させた表現活動は劇遊びやミュージカルに偏りやすく、それ以外のものとしては個々の科目をオムニバス形式で実施し科目間の融合性が乏しいものが認められた。

そこで本研究では音楽、造形、身体、言葉の表現のうち複数の領域を連携させた活動を総合表現として捉え、各科目の専門性に重点を置きつつ、横断的に書く表現領域を連携させたクロスカリキュラムでの授業計画を検討する。併せて保育現場における表現活動の実態および保育者養成校での総合的な表現活動の授業実施の実態に関する調査を踏まえ、比較的他科目との連携の形がとりやすい「音楽表現」以外の科目間連携をどのように進め、実践的で総合的な表現力を習得するのかについての授業計画の検討と試行を行う。

3. 研究の方法

保育現場および保育者養成校における総合的な表現活動についてのアンケート調査による実態把握と、それを基にした保育者養成校での総合表現活動のモデル授業計画の検討および実施の 2 段階で研究を行った。

[アンケート調査]

次の2件のアンケート調査を実施した。

1)平成26年10月に京都市内及び京都府下南部の国立・公立・私立幼稚園および保育所、計200ヶ園を対象に「幼稚園・保育所における『表現』領域の活動に関する調査」と題するアンケート調査を実施。調査票回収後、保育現場で実施されている表現活動についての分析を行う。

2)平成28年1月に、全国の幼稚園教員および保育士養成過程を擁する大学・短期大学・専門学校を対象に「保育者養成校における『表現』領域の授業に関する調査」と題するアンケート調査を実施。調査票回収後、養成校で実施されている表現領域の授業について分析を行う。

[授業実践]

アンケート調査の結果を踏まえ、保育者養成校の表現領域の授業において、総合的な表現力を養成するための授業計画を立案して指導を行い、幼稚園児を対象にした作品の発表を行う。

1)平成28年1月：4歳児を対象とした作品発表

2)平成29年1月：4歳児を対象とした作品発表

3)平成29年1月：3歳児を対象とした作品発表

上記作品を参観した現職幼稚園教諭および養成校教員より改善点・感想などのコメントをもらう。受講生・担当教員による振り返りを行い、授業計画に反映させ、モデルカリキュラムとして提示する。

4.研究成果

子どもの様々な表現を受けとめ、総合的な表現活動を実践できる保育者を養成するための授業を計画する際には以下の観点が重要であることが明らかとなった。

[学生の感性を育み現場で使える表現技術習得のために]

保育現場へのアンケート調査結果より、表現活動をする際に、保育者は幼児自らの主体的な取り組みや自由な発想を受けとめつつ

「楽しむ」ことに重点をおいており、子どもの内面や姿が見えた時に表現活動の面白さを感じていた。それゆえ子どもの発達に則した指導力の重要さを指摘しており、保育者の資質として必要な事柄として挙げられたのは

「豊かな感性」であった。保育者養成校へのアンケート調査では、多くの養成校で総合的な表現活動として取り上げられていたのは総合的な表現活動としての完成形としてとらえやすい劇・ミュージカルであった。しかし、保育活動としての表現が目指すものは、日々の活動や作品の制作過程での相互刺激による感性の育みである。「感性を育む授業」はどのようなものであるべきかについて模索したことは、どのような授業内容や指導をすれば保育者を目指す学生の創造性、すなわち自分たちの工夫を表現できる感性を育む経験につながるのかということであった。個々の表現領域が独立した授業を提供することは、養成校学生にはそれぞれの領域がどれほど自由自在に組み合わせうるものであるかについて創造することが難しいのではないかと考えられる。これを打破する方策としてクロスカリキュラムという枠組みを利用し、複数の領域の要素が重複していることで、学生たちは領域間の相互的な関連付けの様々な経験をすることができたといえる。このような経験は保育者となったのちにも応用できるものとなると考えられる。

[クロスカリキュラムとして行うための工夫と実際]

どのような領域の活動をクロスカリキュラムとして重複させるのか、重複させた際の活動内容をしっかり吟味する力を養成校学生に

育てなければならない。本研究での総合表現としての授業実践では、「音」「声と動き」「ことば」「からだ」をテーマとしてカホン、プレイクロス、オノマトペ、ボディソックスを教材として用いた活動の体験を『オノマトペ譜』として色・形・声・からだで表した。また、音×ことば、からだ×造形といった2領域を連携させた活動に取り組んだ。クロスカリキュラムの中で、それぞれの専門領域担当者が厳選して取り上げた教材を用い、指導法や指導内容を検討した試みが重要な意味を持っていたと言える。

[成果を具象化し検討材料とするための工夫]

授業内での表現活動はグループ活動として実施したが、学生がお互いの表現を見合い、共に創作表現をすることを重ねた。各自が表現者となっていく過程では常に他者からの視線があった。さらに、子どもが喜んでいるか、子どもの心情を揺さぶる活動や作品になっているかという視点が重要といえる。また、このように体験した活動を映像や「オノマトペ譜」のような作品として視覚化して振り返ることは、取り組みの軌跡の確認に有効であると考えられる。

[課題と展望]

保育者として総合表現のための知識・技能・感性が重要であることはいうまでもないが、いきなり完成度の高い総合表現としての各領域の融合が可能となるのではない。総合的な表現活動を可能にするには、各領域の個々の基本的な知識・技能であり、それらの習得が前提となる。個々の領域の基礎技能を身に付けさせつつそれらを活かした関連付けをさせるという段階を踏んで導入していくことのできるプログラムが必要となる。そのような経験が保育の現場で取り上げる活動や教材が徐々に発展していくことの気づきを促すことにもつながり、また、子どもの表現を受

けとめる保育者としての能力を習得するきっかけとなると考えられる。

また、養成校教員はそれぞれの専門領域の特徴を把握し合い、身の回りの素材から表現の可能性を見出し、利用してお互いを活かすような組み合わせの可能性が大きくなるような教材開発をさらに工夫し提示していく必要がある。その際、教員間のイメージの共有や授業実施のための打ち合わせ時間を確保し、協力体制を組むことが大きな鍵となる。つまり、総合表現を意識した授業を展開するには教員の力量と協働が重要になる。

授業の実際に関しては学生のモチベーションのあげ方、表現を認める際の様々なことば掛け等、教員自身の動きを引き出す表現力や的確なことばでの表現の承認について工夫を重ねていくことが必要である。

以上の内容の詳細と、発表論文、発表ポスターを掲載した報告書を平成29年3月に発刊した。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

智原江美・鍋島恵美・和田幸子・下口美帆・田中慈子

「幼稚園・保育所における表現領域の活動に対応した保育者養成のあり方

京都府南部の幼稚園・保育所へのアンケート調査からの検討」

(京都光華女子大学研究紀要 第53号掲載 平成27年12月発行)

智原江美・鍋島恵美・和田幸子・田中慈子

「アンケート調査からみた保育者養成校における総合的な表現活動に関する授業の実施状況」

(京都光華女子大学研究紀要 第54号掲載 平成28年12月発行)

和田幸子

「保育総合表現のこころみ 絵本『ぱび
ぱべぱ』を題材にしたグループ活動の考察
」

(関西楽理研究 XXX 号掲載 平成 28
年 11 月発行)

鍋島恵美

「保育者に求められる『感性』を育む授業
の試み 擬音語・擬態語の表現に注目し
て 」

(京都光華女子大学研究紀要 第 54 号掲
載 平成 28 年 12 月発行)

[学会発表](計 5 件)

智原江美・鍋島恵美・和田幸子・下口美
帆・田中慈子

「幼稚園・保育所における表現領域の活動
と保育者の専門性」

日本保育学会第 68 回大会(平成 27 年 5
月、於：椋山女学園大学)

智原江美・鍋島恵美・和田幸子・下口美
帆・田中慈子

「クロスカリキュラムを用いた保育内容
『表現』の授業展開に関する試案」

保育士養成協議会第 54 回研究大会(平
成 27 年 9 月、於：ホテルレイトン札幌)

智原江美・鍋島恵美・和田幸子・田中慈
子

「クロスカリキュラムを用いた保育内容
『表現』の授業開発」

日本保育学会第 69 回大会(平成 28 年 5
月、於：東京学芸大学)

智原江美・鍋島恵美・和田幸子・田中慈
子

「保育者養成校における総合的な表現活
動の実態を問う 養成校を対象とし
たアンケート調査に着目して 」

保育士養成協議会第 55 回研究大会(平
成 28 年 8 月、於：いわて県民情報交流
センター)

智原江美・鍋島恵美・和田幸子・田中慈

子

「保育者養成における領域『表現』へのク
ロスカリキュラム導入に関する検討」

日本保育学会第 70 回大会(平成 29 年 5
月、於：川崎医療大学)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

智原 江美(CHIHARA, Emi)
京都光華女子大学・こども教育学部・教授
研究者番号：90217240

(2) 研究分担者

鍋島 恵美(NABESHIMA, Emi)
京都光華女子大学・こども教育学部・教授
研究者番号：70723451

和田 幸子(WADA, Yukiko)
京都光華女子大学・こども教育学部・准教
授
研究者番号：40596615

田中 慈子(TANAKA, Yasuko)
京都光華女子大学・こども教育学部・講師
研究者番号：00710378

下口 美帆(SHIMOBUCHI, Miho)
京都光華女子大学・こども教育学部・准教
授
研究者番号：00582165